

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年7月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200445
法人名	医療法人 杏政会
事業所名	グループホーム そら
所在地	鹿児島県薩摩川内市横馬場町8番11号 (電話) 0996-22-6800
自己評価作成日	平成27年5月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症専門の施設として安全・安心な施設作りを目指し、日々取り組んでいます。職員は利用者様へゆっくと一緒に、笑顔あふれる生活を提供しています。利用者様とのコミュニケーションとして、毎日、利用者様との握手や毎朝の化粧に取り組み、職員と利用者様間だけでなく、利用者同士の会話が增え、明るく笑顔が絶えません。また、嚙んだり飲み込む機能の低下された方の食事は、食材の持ち味、特性を生かしながら切り方を工夫したり、柔らかく調理し、味はもちろん見た目にも配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、母体医療法人の介護老人保健施設に併設されており、行事や避難訓練など合同で実施したり緊急時の協力体制が築かれている。日常的に栄養士や理学療法士・歯科衛生士などの専門職の助言や協力を得て利用者に質の高いケアを提供しようと努めている。
- ・協力医療機関とは往診や24時間医療連携体制が築かれている。
- ・利用者の希望で馴染みの商業施設を利用するなど、利用者が入居前の生活を継続できるような支援に取り組んでいる。
- ・家族から出された意見や要望にホームの検討結果及び改善点等を併記したものを玄関に掲示し、家族の要望等に真摯に取り組んでいる。
- ・職員の資格取得の支援や年休・産休制度、法人内託児所等の福利厚生が充実し、調理担当の職員を配置するなど、働きやすい環境が整備されている。

ユニット2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念はBS法を用い全職員で話し合い決めたもので、朝の申し送り時に読み上げている。	職員全員で作った理念をホーム内の玄関やホール・事務所等に掲示し、毎朝、申し送りのミーティングで唱和して理念の実践につなげている。理念に基づいた目標を年度毎に設定し、ケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会長と協議の上、代表者名で自治会に加入している。近所の商店や公園に利用者と訪れたり、ボランティアも積極的に受け入れている。	自治会に加入し、散歩時に公園のゴミ拾いやごみステーションの清掃、地域行事の見物や地元の商店での買い物等をしている。住民対象の家族の介護教室や徘徊模擬訓練の実施、ボランティアや実習生の受け入れなど、積極的に地域との交流を行い認知症の情報発信に務めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人共同で、家族介護教室や徘徊模擬訓練、夏祭り、感謝祭を開催し、認知症の地域理解への働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>職員や市担当者、消防署職員、大学教授、地域住民、ご家族の参加を頂いている。会議で出た意見・要望は検討し、今後の運営、サービス改善に生かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。ホームからの現況報告や避難訓練実施の報告・外部評価調査の報告・消防法の改正に伴う通報装置の改善・感染症対策の励行等を話し合い、各立場からの助言や意見などが活発に出され、ケアに活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市の担当者に運営推進会議出席をいただく他、現場の実情などを伝え、助言いただく機会を作っている。（消防職員からの助言等）</p>	<p>市担当者とは運営推進会議の出席や相談は窓口に出かけたり電話で助言等を得ている。市からはメールで研修案内が来たり情報が送られるなど、日頃から連携を取っており、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に「身体拘束廃止委員会」を開催し、拘束ゼロ維持に向け努めている。周辺の不審者情報もあり玄関を施錠しているが、外へ出て行こうとする雰囲気を感じたら一緒に外出する等、自由な外出の妨げにならないようにしている。</p>	<p>身体拘束をしない方針であり、身体拘束廃止委員会を設置し職員の研修を実施している。不審者及び利用者の徘徊対策として玄関の施錠を終日実施しているが、利用者の自由な生活を支援するため、職員で検討中である。</p>	<p>日中の玄関の施錠をしないケアの取り組みが期待される。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については毎年、法人共同の勉強会や身体拘束廃止委員会にて学習している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度や権利擁護については、県グループホーム協議会の夏期講習会（7月）参加を計画し、実施予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居頂く際、事前に管理者、計画作成担当者および事務担当者より説明を行っている。また、利用希望者やご家族には、実際に来訪頂き雰囲気を感じて頂く事を勧めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	②行事实施後、ご利用者やご家族に感想をうかがったり、毎年、利用への聞き取りアンケート調査を実施している。また、今年はお家族より提案をいただき一緒に「豚味噌作り」を実施した。	利用者からは、日常のコミュニケーションの中で意見を聞いたり、ホームの夏祭り及び忘年会の機会に、家族とお茶を飲みながら話をしたり、年2回茶話会をして意見が出やすいようにリラックスできる雰囲気作りをしている。年1回はアンケートも実施している。要望等については検討し実施できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	②管理者・代表者が出席する運営会議、管理者・職員が出席する職員会議を毎月実施し、職員からの提案や検討が行える体制を整えている。（提供食材の選定について管理栄養士との確認の場を持った等）	朝の申し送りや会議で提案等を聞く機会を設けており、今年度は、職員の提案を受けて、記録物の簡素化や日勤帯の出退勤時間の見直しに取り組んでいる。個別相談はプライベートなことも含め日常的に相談を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務は原則担当制としているが、業務量が過多にならないよう業務分担の配慮をする他、研修や資格取得の支援、資格手当支給や法人として育児支援の取り組みも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で、毎月勉強会や毎年事例発表会を行い、そら独自でも勉強会を行っている。また、認知症、行政、GH協議会関連の研修会への参加機会を設け、職員のケアの質の向上を図っている。（今年度は認知症人材育成研修に参加予定（9・10月）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他施設からの実習の受け入れや、地域のGH協議会加入等により交流の機会を設け、意見交換等の活動を通じてサービスの向上に繋がる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての環境における生活に対する不安は強いものである事を全職員が理解しており、ご本人が利用される前に出来るだけ多く来訪いただけるよう、ご家族に声掛けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期利用時におけるご家族からの情報の重要性を全職員が理解しており、入居後もご本人とご家族との良好な関係が保てるよう積極的に相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、初期相談は法人の支援相談窓口に一本化されているが、相談時に入居の可否に関わらず、その時に必要と判断したサービスの紹介を行い、問題解決への支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各ご利用者の状況に応じて家事作業や趣味活動等に参加頂いている。その際、職員も一緒に参加し、教えて頂く態度で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者にとってご家族は重要な存在として、日常生活について電話や広報誌、介護計画説明時にお伝えしている。面会・外出の機会が増えるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	②川内川堤防、春田川公園等への散歩や地域へのお花見ドライブ、買い物、友人・知人の訪問の機会を持ったり、地域の図書館の利用などご家族の協力をいただきながらなじみの関係が続くよう支援している。	これまでの馴染みの生活スタイルや人との関係を継続できるよう、本人の要望等に沿って、買い物や外食・図書館・理美容室等の利用を家族の協力を得ながら実施している。近所を散歩したり、これまで大切にしてきた生活歴の中から、県外の家族と文通をしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のご利用者同士に会話があり、お互いを認め、気遣い、手助けするなど支え合う関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に訪問いただけるよう声を掛け、ご本人・ご家族も散歩がてら遊びに来られている。また、退居先の病院・施設等への訪問や面会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の関わりの中から、一人ひとりの思いや意向を個性として言葉や表情、行動から把握し、申し送りやカンファレンスで情報を共有し、ケアの統一を実践している。	日常の会話等から本人の思いを把握するように務めており、家族や知人からの情報も参考にしながら、何気なく漏らされる言葉をそのまま記録し職員で共有している。その人らしく、安心して暮すことができるように個別にケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者との会話の中での情報はもちろんの事、ご家族や親戚、友人・知人の方にもプライバシーに配慮しつつ、情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人録や申し送りノート、業務日誌等の文書、ケアカンファレンスや申し送りの場を活用し、日々の気づきを職員間で共有出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、担当職員が出席した場で定期的に話し合いが行なわれ、必要に応じ、臨時の開催や必要に応じ管理栄養士、歯科医、主治医等に意見を頂いている。内容はご本人・ご家族と検討し、承諾を経て決定され、ケアに反映されている。	担当者会議で本人及び家族の希望を基に介護計画を作成している。家族が参加できない場合は電話で要望を聞いており、必要に応じて併設施設の専門職の意見も参考にしている。最初は1ヶ月後に、その後3ヶ月、安定してきたら6ヶ月毎に行っている。本人の状況に合わせて計画をその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人録へ記入し、ケアプランの実施状況は所定の記録用紙を活用している。毎日の申し送りやケアカンファレンスの場で情報を共有し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	②地域医療機関の協力のもと、定期的な訪問診療の実施や管理栄養士による個別のカロリーや食材の選定について指導を受けた。受診付き添いが困難なご家族の為、法人で自費負担でのヘルパー提供も計画中である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカや詩吟、カラオケボランティアに訪問いただき一緒に合唱やご利用者の声で屋台ラーメンを呼び、御自分で注文して食べたりした。図書館利用、買い物支援も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、これまでのかかりつけ医の利用としているが、遠方等利用が困難な場合は協力医療機関を紹介している。必要時、受診に職員が同伴し、症状の報告を行なっている。	受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を職員や家族対応で支援している。利用者に応じての協力医や精神科医・歯科医の定期的な往診等で、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤の看護職員を配置し、日常の健康管理をサポートする他、夜間緊急時等には併設施設の看護師に対応（応援）いただけるような体制をとっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は努めて病院へ出向き、必要に応じて情報提供や病院関係者と情報の共有が出来る。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・ご家族に対し、入居時より当事業所で対応可能な事、出来ない事を説明している他、早い段階から個別に本人・家族と話し合い、入居継続の判断は、主治医や協力医療機関の医師にお願いしている。</p>	<p>入居時に重度化や終末期の指針に基づいて事業所の対応を説明している。その後、介護度に応じて段階的に特別養護老人ホームの利用申請及び重度化の場合のホーム対応について説明し、重度化の場合は主治医及び家族と話し合って支援に取り組んでいる。終末期対応についてもチームで取組みを進めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時や体調の急変とその対処法について法人共同の勉強会の他、独自で勉強会を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設施設と合同で、避難誘導・消火訓練・夜間呼び出し訓練を行う他、独自で通報確認訓練の実施、運営推進会議を通じて消防職員からも意見を頂いている。また、災害時に備え、飲料水や食料を備蓄している。（そらでは2日分の飲料水・食料を、併設施設では飲料水の備蓄がある）</p>	<p>合同災害訓練を併設施設と共に年3回実施している。火災と水害の対応・対策を消防署職員の指導で行っている。消防法の改定などの情報も得ている。地域の協力ができるように取り組みを進めている。法人内事業所の協力体制が構築されており、非常用の水や食料等の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>運営母体と一体で個人情報保護・尊厳保護に努めている。(公開の事前確認、書類持ち出し規制、勉強会の実施等)。ご利用者へは人生の大先輩として敬いの気持ちを持ち対応している。</p>	<p>利用者の尊厳とプライバシーの確保を行い、プライドや誇りなどを傷付けないように勉強会で振り返りを行い身につけるようにしている。特に言葉かけには注意を払っている。着替えや入浴時の同性介助を実施し、申し送り時には利用者のイニシャルを使う等、プライバシーの保護に努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>全てのケアにおいてご利用者とその都度「どうしたら良いですか」と希望の聴取をし意思を尊重している。(飲み物の希望、外出、衣類の選択、過ごし方等)</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の1日の生活スタイル(日課、食事、外出等)を把握し、それに基づいてご利用者のその人らしい生活を支援している。(食べたい物の購入、季節の花見、なじみの店の買い物等)</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>利用者・ご家族の希望に応じて服装・髪型・化粧の支援を行っている。理・美容についても利用先を選んでいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、食事、後片付けまで職員と利用者が一緒に行っている。育てた野菜・果物を栽培・収穫に関わったり、参加が難しい利用者の方には味見で参加頂くなどより興味を持っていただく工夫をしている。	栄養士の献立で専任の職員が調理しており、利用者にあった食事形態で提供している。職員と一緒に個々の力を活かして下ごしらえや盛り付け・後片付けをしている。行事食やウッドデッキでの食事等、楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の管理栄養士が作成している。食事・水分摂取量は毎日表に記入すると共に量の確保に向け、体重減少がみられる方への補食を提供、検証する等個別に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	代表者と職員は口腔清潔の重要性を認識し、毎食前の口腔体操、毎食後の口腔ケア実施の他、歯科医による定期検診や往診治療を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄方法やパターンに基づき、定時誘導、訴え時の速やかな排泄介助、排泄環境の整備、モデリングの実施等、出来るだけオムツ使用や失禁を予防する排泄支援を行っている	利用者に合わせて布パンツやパットのみを使用し、排泄の自立に向けた支援をしている。羞恥心や排泄への不安を軽減できるように声かけやさりげないトイレへの案内をしている。尿意のない利用者には、観察を強化して、職員で習慣やパターンを把握してトイレ誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者ごとに排泄状況の把握に努め、排泄表に記録し便秘の早期発見に生かしている。便秘予防の取り組みとして毎日の体操や水分摂取量の確保を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は利用者の体調、発汗などを考慮し、本人の希望に応じて入浴できるよう努めている。	入浴日は週3回を基本にしている。生活歴を把握して生活習慣に沿った入浴を楽しめるようにしている。入浴剤で温泉気分を味わったり、皮膚疾患の利用者には石けんやシャンプー剤を配慮している。その日の体調や入浴を嫌がるときは無理強いはしないようにして、翌日に入ったりしている。失禁時にはシャワー浴や陰部洗浄で保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣等生活リズムや体調、睡眠や活動状況に応じて適切に休息が取れるよう居室環境（室温・騒音・光等）を整え個別に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は情報を共有できるよう申し送りノートやお薬手帳を活用する他、状態把握に努め、服薬の疑問点は医師以外に相談できる調剤薬局がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	②ご利用者の生活歴や活躍された事、楽しみ事を職員間で共有し、チームとして日々の生活の中で引き出せる場面を多く作れる様努めている。(裁縫、花生け、歌の披露、茶碗洗い等)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	②日常的に散歩や買物、お花見などへのドライブや図書館利用、北海道物産展への外出、家族との外食など実施している。日常的に出かけられない場所には、行事を企画したり、家族に外出の協力をお願いしている。	日常的には近隣の散歩を実施している。その日の天気や利用者の気分ドライブや買い物に出かけている。年間計画で季節毎に図書館や催し物を見物に行っている。家族の協力で外食や墓参りなど、外出の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理方法は事前に本人や家族と話し合っており、個別に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を掛けて頂く様お願いしたり、利用者からも電話が掛けられるようお願いしたり、遠方の家族とは手紙やファックスなどのやり取りなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ごとに体感を確認したり、温度・湿度の確認、テレビの音量や照明、空調や換気の調整をし、快適に過ごせる環境を整えている。共有空間には季節ごとに花を生け、利用者の作品や写真を飾るなど生活感を演出している。	リビングは明るくゆったりとした広さで空調等の環境が整えられている。ソファコーナーで思い思いにくつろげる様に工夫されている。台所は、みんなで調理ができるようにオープンになっている。季節の花や飾りつけがしてあり、リビングに続くウッドデッキでの食事会を行っている。避難路のスロープなど安全に配慮した取り組みもされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではテレビを見る方、読書や新聞を読む方、箱折りや裁縫する方、利用者同士おしゃべりする方など一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	②ご利用者や家族になじみの家具や生活用品の持込をお願いしている。居室には遺影や家族・友人との記念写真、色紙、プレゼントの品、趣味の書や絵などが飾られている。	居室は本人や家族と相談しながら在宅でいつも使っていた物や家族の写真などを飾っている。趣味を大切にしている利用者には作品を飾り、いつでも趣味を活かし取り組めるようになっていく。本人が落ち着いて過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の低下に応じた手すりやスロープの設置、認識しやすい居室の表札、ご利用者の背丈に合わせた表札の位置、「トイレ」でなく「便所」とご本人に解りやすい表現の工夫するなど行っている。		

V アウトカム項目(ユニット2)

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない